

電子証明書を使用するにあたって

電子証明書とは??

本人認証では『記憶認証』(パスワードなど)と、その人しか持っていないもので認証するという『所持認証』の二つの要素(例:キャッシュカードと暗証番号)を組み合わせた対策が有効とされていますが、現時点で電子証明書はこの二要素認証を実現できるオンライン取引に最適な本人認証方式です。

メリット

- ・万一、パスワードを不正入手されても、正しい証明書が提示されない限りログインできないため、フィッシングサイト、スパイウェア対策に有効です。
- ・会社内の決められたパソコンの決められたユーザからしか操作できないため自宅など、他の場所からのアクセスを制限することができます。

デメリット

- ・パソコンの変更や、使用ユーザの変更を行う毎に、銀行への届出と、証明書の再発行処理が必要となります。

留意事項

- ・電子証明書をインストールしたパソコン以外では、法人WEBをご利用できません。
- ・電子証明書の有効期限は1年間ですので、証明書の期限が切れた場合、接続できなくなるため、1年ごとに再度証明書の取得作業が必要となります。
- ・電子証明書ログインでは通常、初回のみ「ユーザID」を使用し、その後は「ユーザID」は使用せず、電子証明書と、パスワードを利用してログインします。しかし、電子証明書の再発行時等「ユーザID」が必要となる場合もありますので、必ず保管しておいてください。

動作環境について

- ・OSとインターネットに接続するソフトのバージョンは以下を推奨しております。
- ・以下のとおり、証明書方式ではOSは「Windows」ブラウザは「Internet Explorer」のみの対応となっております。(「Macintosh」ではご利用できません)
 - Windows2000…Internet Explorer 5.5^{※1}、Internet Explorer 6.0^{※1※2}
 - WindowsXP …Internet Explorer 6.0^{※1※3}、Internet Explorer 7^{※1※3}

※1 マイクロソフト社から提供される各OSのセキュリティパッチMS02-48が適用されていることが条件となります。なお、Windows2000の場合はサービスパック4以降、WindowsXPの場合はサービスパック1以降が適用されていれば、セキュリティパッチMS02-48は不要です。Windows2000にセキュリティパッチMS02-48を適用する場合、サービスパック1～3の何れかが適用されている必要があります。

※2 Internet Explorer 5.5では、証明書ログイン時に証明書選択ダイアログで証明書を選択すると、最初のログイン画面に戻ります。その画面から再度ログインすると、今度は証明書選択ダイアログが表示されずにログインパスワード入力画面に遷移しますが、そのまま操作を継続しても問題ありません。

※3 WindowsXPにてワークグループの機能を利用している場合、ワークグループに参加しているWindowXPユーザのWindowsパスワードを、証明書発行後に管理者が強制的にリセットすると、証明書ログインができなくなります。この場合は、パスワードを証明書取得時のものに戻すか、証明書の再発行が必要となります。

※「電子証明書方式」は、「ログインID方式」に比べて、ご使用になれる環境(OS、ブラウザ等)に制約がありますので、特に、「ログインID方式」から「電子証明書方式」にお申込をご変更いただく場合は、動作環境にご注意ください。